

## 事業報告書（令和5年度）

事業名 包括的性教育をもっと身近に！プロジェクト

団体名 Life is

担当者名 東海林みゆき

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

第1回 2024年1月20日 10時～11時30分

岡山市足守公民館、34人（内成人男性4人）

講師：おっ産ず氏

テーマ：国際セクシュアリティ教育ガイダンス  
が示すキーコンセプト8「性と生殖に関する健康」お産劇

内容：

おっ産ずさんメンバー3人による「命の成り立ち」の紙芝居、お産劇、産道体験など。

・「痛い」「いやだ」という表現のないお産の様子は恐怖のない、感動にあふれるものだった。

見ていた子どもたちは、最初は照れた様子や笑い声が聞こえにぎやかだったが、お産が進行すると前のめりになり息をのみながら産婦役の様子を見守っていた。自身のお産を振り返り涙ぐむ女性の姿もあり。

・「【私たちが望んで産んだ】という言葉に【はっ】として、こんなに幸せなことを日々の中で忘れてしまっていた」「小さなころから家族と一緒に学ぶ性教育ってステキです！」などの感想を頂いた。



第2回 2024年1月20日 13時～14時30分

岡山市足守公民館、7人(成人女性7人)

講師：シャノン香織氏(助産師)

テーマ：キーコンセプト5「健康と幸福のためのスキル」

内容：「しあわせってなんだろうー五感を使ってみるー」



・否定しなくていい、ジャッジしなくていい、ありのままを受け止める。湧いてきた気持ちを大切にしてくださいとの講師の言葉から始まる。しあわせとはなんなのか。難しそうなホルモンの話、理論の話も温かみのある字体、色味の資料でわかりやすく説明。しあわせに生きるためにも大切なものと位置づけられている包括的性教育。しあわせに生きるためにも人権、自己決定権を大切にしていこうと、しあわせと包括的性教育と人権を結び付けてそして自分事として考える時間となった。

感想からは「しあわせ」についてこんな風に語り合う機会ってなかなかないですよ。少人数でほっこり語り合えてしあわせでした。」「性教育=身体のこと、性、命を学校で学ぶとイメージされることが多いが、幸せに生きること、自己賦体ができることを学ぶことと気づきました。学ばないと幸せに生きられないと思います。」普段なかなか語り合わない「しあわせ」と向き合う時間はそれ時間がしあわせな時間であった。

第3回 2024年1月28日 10時30分～12時

岡山市足守公民館、6人(成人女性6人)

講師：横山浩花氏(ノートルダム清心女子大学 大学院)

テーマ：キーコンセプト2「価値観、権利、文化、セクシュアリティ」

内容：大学生が過去に受けた学校性教育の経験の認識ー大学生対象のアンケート調査と大学生・養護教諭へのインタビュー調査をもとにー発表と意見交換。

・横山氏がバイト先で受けた性差別の体験などをきっかけに性教育に興味を持ち、大学生が受けてきた性教育の経験・認識を明らかにし、効果的で現実的な性教育の提言をすることを目的に行った吉備国際大学在学時の論文の発表。

・性教育を生理学的、心理学的、社会的な3領域に分類し、経験としては心理学的、社会的領域の学習割合の低さが目立ち、大学での性教育については60%以上が「大学生として性教育を受けたい」との回答があった。

・Life is 代表東海林自身も性教育20年の中で大学生・専門学生への性教育は数回程度で

(様式第 8 号)

あり、大学生はこれまで受けてきた性教育に対してどのように思っているのか、何を知りたいと思っているのかは感覚に頼るところが大きかったのでとても学びになった。「性教育は人間教育・人生教育だと思います。(中略)時代が変化し、考え方も多様化する中でいろいろな人が幸福になればと思います。」など感想を頂いた。

※横山浩花さんはその後ニューヨークの国連本部で行われる「女性の地位委員会」に派遣されることになりました。



第 4 回 2024 年 2 月 4 日 10 時～11 時 30 分、

岡山市足守公民館、24 人（成人男性 3 人、成人女性 6 人、男児 5 人、女児 10 人）

講師：東海林みゆき（講師料なし）

テーマ：キーコンセプト 2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ

内容：「みんなちがって みんないい」小学 1 年生とその家族への講座。

・第 4 回の参加者は昨年度も東海林の包括的性教育を受けており、命の誕生の基礎的な内容の復習と、人権や文化について、小学 1 年生でもわかりやすく絵本（はじめにきいてね、こちょこちょモンキー！—同意と境界、はじめの一步）やクイズを取り入れた内容をお伝えした。「嫌だよ」と実際に言ってみる体験ワークも実施。「相手の気持ちを考える、自分の気持ちを伝えることの大切さを教えて頂けて貴重な時間でした。」「普通に話しても子どもに難しい内容をクイズや絵本を通して自分ごとにして伝えてくれるので大人も子供もわかりやすかった」など感想を頂いた。



## 2. ESD の視点

### ①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

・参加して下さった多くの方が包括的性教育に「興味はあるが、きっかけがなかったの  
いい機会だった」と思ってくれた様子。感想から「子どもが大きくなるにつれて、どう話  
すべきか悩んでいたのが勉強になった」という声も多かった。やはり多くの方にとっての  
「(包括的)性教育」は生理学的なこと(性行為や初潮、射精など)を学ぶ場というイメージ  
が強く、それ以外の心理学的(思春期の心理、性の多様性など)、社会学的(性暴力、ジ  
ェンダー平等など)な領域についてを学ぶ機会と思っている方はまだ一部のだなど実感  
した。

・しかし、昨年度に引き続き団体の所在する地域「足守」で事業を行ったこと、特に今年  
度は「公民館」を会場としたことは、学び・繋がりが単年度で切れず、来年度以降にも引  
き継がれ、学びを積み重ねていくこと、繋がりの輪を広げていくことの難易度を下げてく  
れたため、昨年度、今年度、来年度以降と、包括的性教育をもっと身近に位置付けてく  
ださる人が増えていくものと確信している。

・また、「たくさんの人に受けて欲しい内容」との感想を複数人から頂いた。昨年参加して  
下さった方が再び参加して下さる、知人を誘う、告知を手伝うなどしてくれた。参加者が  
発信者となり、ESD のもつ力が発揮されたのではないかと思う。

### ②どのように学び合いを取り入れたか

・各回、価値観の共有の時間をとるようにした。

・第 2 回の際に、配線や機材の位置の関係で、講師を前に、参加者は全員講師の方を見る  
ような形に配置してしまった。価値観の共有の時間には後ろを向いてもらうなどしたが、  
「学び合う」には不都合な配置となってしまった。

・第 3 回時には座り方も工夫し、お互いの思いを聞きやすく、表情も見えやすくなるよう  
にした。来年度以降も座席の配置に注意したい。

### ③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

・第 4 回時には小学 1 年生と幼児の参加が多かったため、より自分ごとに考えられるよう、  
クイズや絵本を取り入れた。クイズでは「目玉焼きには何かける?」「ごはんにはシチューを  
かけるのが好き?」といった日常生活での一場面を題材にし、「多様な価値観の存在」が政  
治上の問題、国際問題ばかりではなく身近な問題にもあるとわかりやすいように工夫した。

・「嫌だよ」を伝える体験ワークでは、家族や友達とペアになり、「言う」「言われる」を体  
験し合った。このワーク自体を「やりたくない、嫌だよ」と言ってもいいことも伝えなが  
ら行った。

・大人でも難しい学びと実践の結びつけだが、子どもの方が実践につながりそうな雰囲気  
だった。大人にも自分事として聞いてほしかったが、親目線で聞いてくださっていたよう  
に思うので「親でもあるが、あなたも一人の人、自分が主役」として参加してもらえるよ  
う来年度は一言フォローしたい。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

・ 包括的性教育に「触れる」、「受ける」そして「支持者を増やす」と掲げた目標は合計 71 人の方に参加してもらうことができた。1 回あたりの平均値は 17 人。数値目標はあげていなかったが、参加見込み人数は各回 10 人と想定していたため達成できたと思われる。今年度の参加人数は引き続き来年度以降の指標にしたい。

・ 「これまで包括的性教育を受ける機会が特に少なかったと考えられる 40 代以上の男性に呼びかけ、必要性を理解してもらう」では、71 人中 7 人の男性に参加してもらえた（20 代～40 代）。包括的性教育に関連したイベントとして、成人男性参加率が 1 割は高い数字だが、来年度は 2 割を目指して呼びかけたい。60 代前後の方にも参加して頂けるよう呼びかけたい。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

・ 感想などから、参加して下さった方には団体の抱く課題を理解してもらえたように感じている。しかし、参加人数、参加して下さった所属（性別・年齢層・職業）には偏りがあり、幅広く知ってもらうという点については達成できていない。

・ 既に包括的性教育を支持して下さっている方だけではなく、今まで興味がなかった方、きっかけのなかった方も参加して頂けるよう工夫していきたい。多くの方が目にするメディア、企業、NPO などに協力してもらい来年度も同様の事業を行っていきたい。